



地域包括支援センター職員による講話に聞き入る参加者

市は8月2日、認知症サポーター養成講座を行いました。認知症介護者家族交流会「ぬくっこ」の一般公開講座で、認知症について正しい知識を身に付け認知症の人やその家族が安心して生活できる環境づくりを目的としています。

講座には認知症に関心のある一般市民など16人が参加。認知症になった人の心理や市内の支援の取り組みなどを学んだあと、「自分が認知症になったらどのように暮らしていきたいですか？」をテーマとした意見交換を行い、互いの交流も深めました。

「認知症を学び介護と支援の輪を広げる」



偉人などを活用したPR戦略を提言する院生ら

市は、8月6日から10日にかけて、早稲田大学公共経営大学院のフィールドワークを受け入れ、課題研究に取り組みました。今回は「奥州市に縁がある人物とのコラボレーションによる奥州市のPR戦略について」をテーマとし、市職員2人を加えた9人が2班に分かれて調査などを行いました。

最終日の政策提言発表会では、9人全員が一般参加者や市職員の前で成果を発表し、小沢昌記市長は「市を本気で見つめていただき、その思いが伝わる内容に感謝する」と提言を受け止めました。

「奥州市のPR戦略を調査・提言」

えさし 描く未来をリングに寄せて Try! キッズパーク

子どもたちの体験広場「Try! キッズパーク」が8月6日、江刺区の蔵まちモールで開催されました。参加した子どもたちは、消防無線機を使った通信やスコップ三味線での演奏など、市内で活躍する大人たちと一緒に、さまざまな仕事や体験をしました。

併催されたOneLoveフェスタ会場に飾られた共同アート「ぼくらのドリームリング」には、子どもたち一人一人の将来の夢やなりたい職業が描かれ、フェスタのテーマ「一体感」を会場全体が味わっていました。



小さなリングに描いたそれぞれの夢やなりたい職業は、大きなリングのアートになった



アテルイ見学では後継機の予定なども質問された

みずさ 天文台と宇宙に親しむ1日 いわて銀河フェスタ2017

いわて銀河フェスタ2017（同実行委員会主催）が8月19日、国立天文台水沢VLB観測所と奥州宇宙遊学館で開催されました。本間希樹観測所長などによる講演、電波望遠鏡などの施設見学、サイエンス体験などが行われ、来場者は天文学への理解を深めました。

スーパーコンピューター「アテルイ」の見学は、機器更新のため本年度で最後。ブラックホールに興味があるという宮城県の高木陽平くん（10）は「思ったより装置がまとまっていた」と驚きを口にしました。

みずさ 街を流れる燈籠のともしび 第4回奥州乙女川燈籠流し

第4回奥州乙女川燈籠流しが8月20日、水沢区市街地を流れる乙女川で開催されました。(株)まちづくり奥州や水沢区の厄年連が組織する奥州乙女川燈籠流しの会（板屋吉治代表）が主催することになって今回で4年目。乙女川公園での開催もすっかり定着しました。

午後6時に御詠歌奉詠が始まり、読経や焼香などの法要後に燈籠流しが開始。初盆の75個を含む約250個の燈籠と15の舟が流されました。燈籠が川面に列を成すと見送る人は、故人をしのんで手を合わせました。



しのぶ橋の上には住職らが並び、読経で燈籠を見送った

いさや 日本最大級のダム堤体登山 胆沢ダムフェス2017in夏

胆沢ダムフェス2017in夏が8月5日から11日まで、同ダム周辺で開催されました。同ダム管理支所や（一社）いわて流域ネットワークなどの主催で、堤体登山体験会、ラフティング体験会、カヌー体験会、ダムカフェ・物販などさまざまな催し物が行われ、夏休み中の親子連れや観光客でにぎわいました。

昨年大好評だった堤体登山体験会では、大きな岩に苦戦しながらも、参加者は頂上からの声援を受け、普段はできないダム登山を楽しみました。



絶景を楽しみながら登る参加者

いさや 水路の役割歩いて学ぼう！ 水に親しむウォークラリー2017

歩いて進もう！胆沢平野の探検隊！水に親しむウォークラリー2017が8月4日、徳水園周辺で開催されました。参加者116人が「円筒分水工はなぜ円形なの？」といった水路にまつわる5問のクイズに答えながら、3.5kmの散策を楽しみました。ゴール後は、イワナのつかみ取りやビオトープ観察も行われました。

胆沢平野土地改良区の小野寺和人企画換地課長は「農業用水は生態系保全や防火用水の役割も担っていることなどを知ってもらふ機会になれば」と話しました。



水路沿いを歩きながら農業用水の役割を学ぶ子どもたち

こもがや 軽妙な語り口調に会場沸く 衣川ふるさと寄席

国民宿舎サンホテル衣川荘で8月6日、衣川ふるさと寄席（同荘・桂枝太郎後援会主催）が開催されました。5回目となる今回は、三遊亭遊雀さん、マギー審司さん、三笑亭可龍さんが出演。桂枝太郎さんは「東京での落語ブームを岩手でも起こしたい」との願いを込めながら、ふるさとに笑いを届けました。

衣川区に住む枝太郎さんのファンの中には、毎回会場に訪れる人も多く、聞く人を引き込むような語り口調にその人気の高さが伺えます。



たくさんのファンの前で高座に上がる桂枝太郎さん